

平成29年度（第61回）
岩手県教育研究発表会発表資料

体育/保健体育分科会

体育科における「主体的，対話的で深い学び」の実現にむけて
—基礎基本の定着と汎用的スキルの育成を目指した体育授業—

平成30年2月9日
岩手大学教育学部
岩手大学教育学部附属小学校
根 木 地 淳

Memo

1. 岩手大学教育学部附属小学校の研究について

(1) 研究テーマ「創発の学び」

個々の考えを合わせながら、集団として新しい価値を創り出そうとする営み

(2) 「創発の学び」の中で発揮される「汎用的スキル」

- ・創造的思考・・・どのような課題も自分事と捉えて取り組み、新しいものを生み出そうとする思考スキル
- ・批判的思考・・・広い視野から多面的・客観的に捉えたり、内省的に考えたりする思考スキル
- ・共感的思考・・・他者との関係の中で、他者の考えの意図や思い、長所を理解し、合意形成を図ろうとする思考スキル

(3) 体育科の本質

運動という身体的活動を行いながら、技能の習得に向けて思考・判断し、仲間と関わりながら、望ましい態度を身に付けていくこと

(4) 体育科の特質

- ・学習者の関心・意欲が高い。
- ・運動を核にして、思考力・判断力・表現力、運動技能・知識、学びに向かう力を育む。
- ・学習を通して、達成感、充実感、仲間との連帯感などを強く感じることができる。
- ・ルールを守る、友達を応援したり励ましたりするなど、かかわりの中で様々な道徳性を養う。
- ・学級経営と強く関係する。(体育授業と学級経営の往還)
- ・思考したことは、その場で試し、動きの中で試行することで検証することができる。
- ・運動しながら思考・判断・表現し、Try&Errorを繰り返しながら試行錯誤することで学習が深まる。
- ・知徳体を全て育成することができる唯一の教科

(5) 体育科における「創発の学び」

集団とかかわりながら、身に付けた知識や感覚を使って、運動のポイントを発見したり、集団として動きやルールを工夫したりする学び

(6) 体育科における「創発の学び」の基礎条件

基礎技能・・・試行錯誤するために必要な基礎感覚、基礎技能
教材理解・・・深い専門性に支えられた教材理解、教材研究・教材開発
学級経営・・・失敗すること、うまくいかないことを受け入れる学級の雰囲気
思いや考えを交流するための学習者同士の望ましい人間関係

(7) 体育科における「基礎基本の定着」

知識・技能における基礎基本・・・各領域における系統性の中で、これからの学習に必要な知識・技能
単元として身に付けたい資質・能力→次の単元での基礎基本
思考・判断・表現における基礎基本・・・動きを見る、考える、判断する、伝える力
生涯スポーツの基礎基本・・・小学校6年間の体育で育成すべき資質・能力
基礎基本の定着のために・・・正しい動きを繰り返す⇐高いレベルでの融合⇒ゲーム化・遊びの要素

2. 新指導要領における「主体的・対話的で深い学び」

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現について（イメージ）



【平成 29 年度 小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）における文部科学省説明資料 p22】

(2) 体育科における「主体的・対話的で深い学び」の実現

「主体的な学び」の過程

- ・ 運動の楽しさや健康の意義等に気付いたり発見したりして、運動や健康についての興味や関心を高める。
- ・ 課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察する。
- ・ 学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする。

「対話的な学び」の過程

- ・ 運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者との対話を通して、自己の思考を広げ深める。

「深い学び」の過程

- ・ 自他の運動や健康についての課題に気付いたり発見したりして、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する。

- それぞれ独立して取り上げるのではなく、相互に関連を図り、体育科、保健体育科で求められる学びを一層充実させることが重要
- 順序性や階層性を示すものでない

【平成 28 年 8 月 26 日 体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループにおける審議の取りまとめ p17～18】

3. 附属小学校体育科の考える体育科での「主体的・対話的で深い学び」のイメージ図

心身の健康の保持増進・豊かなスポーツライフのための資質・能力

- 1 特性に応じた運動の行い方・健康・安全の理解, 基本的な技能
- 2 自己の課題と解決に向けた思考・判断, 他者に伝える力
- 3 健康の保持増進・体力の向上・明るく楽しい生活を営む態度

体育科としての学習内容の確実な習得

汎用的スキルの育成

思考の場

「主体的・対話的で深い学び」

創造的思考

思考

運動の本質に迫る対話
課題の解決を図るための対話

試行

共感的思考

教師の的確な観取りと
フィードバック行動

批判的思考

基礎基本の
定着

豊富な運動量

必要感のある課題

課題解決に必要な基礎感覚・基礎技能

教師の深い専門性 教材理解・教材研究・教材開発

豊かな学級経営 学習者同士の望ましい人間関係

4. 体育科における「主体的・対話的で深い学び」の実現のために

手立て1

① 学習意欲を喚起する教材の開発

- ・学習者が取り組みたくなるような教材
- ・学習題材として指導内容とねらいを明確にした教材
- ・運動の本質的な魅力に迫ることができるような教材

② 学習者にとって必要感のある課題の設定

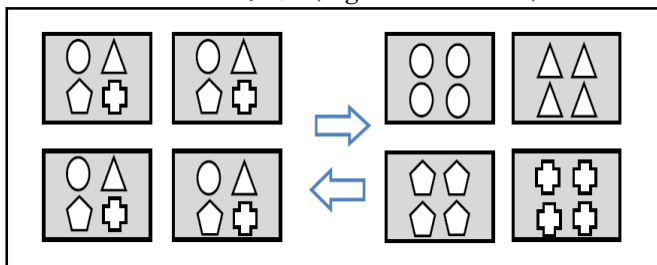
- ・運動の本質に迫ることができるように設定された課題
- ・学習者にとって必然性のある課題（技能向上や、集団での動きにかかわる課題）
- ・適度な制限のある課題（回数、方向等の制限）
- ・発見的な可能性の高い課題（表現運動、体づくり運動）

手立て2

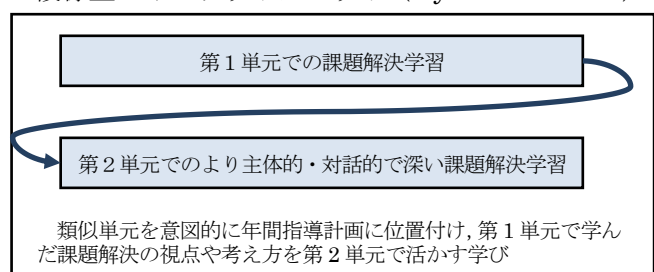
① 1単位時間における思考の場の確保…思考の場における教師の観取りとフィードバックが重要

② 課題解決のための多様な学習形態の研究開発

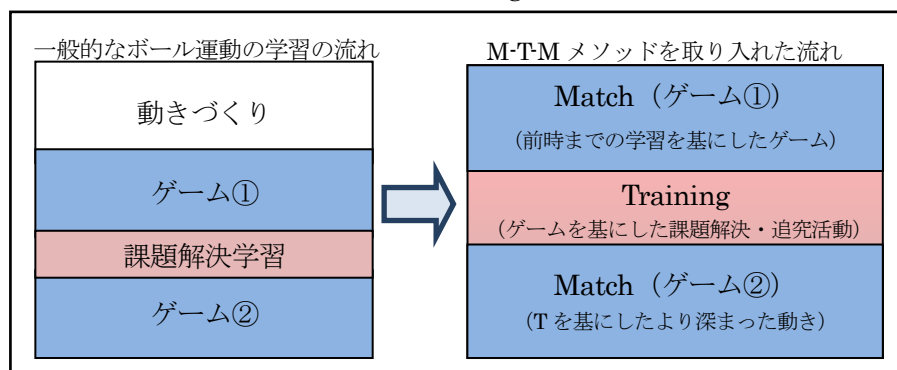
・ジグソーメソッド (Jigsaw Method)



・複線型ハイブリッドメソッド (Hybrid Method)



・M-T-Mメソッド (Match - Training - Match Method)



「深い学び」になるかどうかは、授業の「型」の問題ではない。これらのような特別な指導過程を経なくても、「思考の場」において、運動の本質を追究する「思考」と「試行」が行われることで、そして、指導者がその場面に適切にかかわっていくことで「深い学び」となると考える。

5. まとめ

体育科における「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、進んで学習に取り組みたくなるような教材が設定されていることが大切である。また、学習者にとって必要感のある課題を、運動しながら試行錯誤し、解決する「思考の場」のある学習を構築することが大切である。さらに「思考の場」において、教師の的確な観取りとフィードバック行動がなされることも重要である。この実現のための基礎条件として、学習者が試行錯誤するために必要な基礎感覚・技能と教師の深い教材理解、そして、失敗することやうまくいかないことを受け入れたり、友達を応援したり励ましたりするなどの、学習者同士の望ましい人間関係が構築されていること、つまり、豊かな学級経営が必要である。

岩手大学教育学部附属小学校 体育科研究部 根木地 淳 松村 毅 菅原 純也

Memo